

□ 第64回 総会後見学会参加レポート

Dahua Technology Japan 合同会社
SI事業部 プロジェクトマネージャー 西本 匡

令和7年6月12日(木)・13日(金)、6月にもかかわらずすでに夏模様の日照りの中、「通常総会後見学会」に初めて参加させていただきました。駐車場事業のみならず、関連する施設を視察し、各社様と意見交換・交流を図ることで今後の事業推進の気づきを得られるよう参加させていただきました。

6月12日(木) 見学会1日目

- ・大阪・関西万博 視察
- ・グラングリーン大阪 視察
- ・意見交換会(和楽心 新庄店)

JR新大阪駅正面口1階 駅レンタカー前に9時50分に集合し、そのままバスで大阪・関西万博に向かいました。

大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)は、2025年4月13日から10月13日まで大阪市の夢洲(ゆめしま)で開催されている国際博覧会です。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、健康・医療・環境・テクノロジーなどを通じた持続可能な未来を探求します。150以上の国や国際機関が参加しており、パビリオンや最新技術の展示を通じて、多様な文化や価値観の交流を促進します。経済活性化や都市開発も期待される国家的プロジェクトです。



大阪・関西万博では、会員の皆様とオーストラリア館の見学を行いました。

オーストラリア館は、「Chasing the Sun — 太陽の大地へ」をテーマに、ユーカリの花をモチーフにした美しい外観が特徴です。館内では、先住民文化や自然、最先端技術を紹介し、ブッシュウォーク体験を通じて土地・空・海をめぐる没入型展示を楽しむことができます。また、文化公演やカフェも併設されており、日本との絆を深める交流の場として設計されています。持続可能な建材を活用した設計も注目されています。



オーストラリア館では、まず森を歩くような「ブッシュウォーク」体験に驚きました。ユ

一カ리의香りと映像が広がる空間で、実際に大自然の中に足を踏み入れたような気分になります。進むにつれて空に浮かぶエミューや水辺のシーンに移り変わり、光と音が織りなす演出に



圧倒されました。先住民文化の展示も心に残り、学びと感動の両方が得られる体験でした。

私はセキュリティカメラメーカーの人間な

ので、こうした視察の際にはついカメラを探してしまいます。オーストラリア館では、木材に埋め込まれた液晶ディスプレイに野生動物の映像が流れる演出の中で、その空間美を邪魔しないよう、非常にさりげなく溶け込んだ監視カメラを発見しました。その存在に気づいたとき、建設や設計に携わった方々の丁寧な配慮と、技術と空間演出の美しい共存に深く感銘を受けました。こうした演出は、機能性と没入感の両立を目指す展示空間づくりの理想だと感じました。



続いて、大阪梅田に戻り、グラングリーン大阪の視察を行いました。

グラングリーン大阪は、梅田貨物駅跡地約9.1万㎡を再開発し、都市公園「うめきた公園」を核に商業・オフィス・住宅・ホテル・MICE機能を融合した複合街区とのことです。2024年9月に北街区開業、南館は2025年春オープン、全体は2027年春に完成予定とされています。

三菱地所株式会社 関西支店の皆様からは、大阪市中心部の精巧なミニチュア模型を囲みながら、市街地全体の構造や将来像について丁寧にご説明いただきました。その中で、グラングリーン大阪が担う都市機能や開発コンセプトについても、都市と自然の共生を軸にわかりやすくご紹介いただき、全体像への理解が一層深まりました。



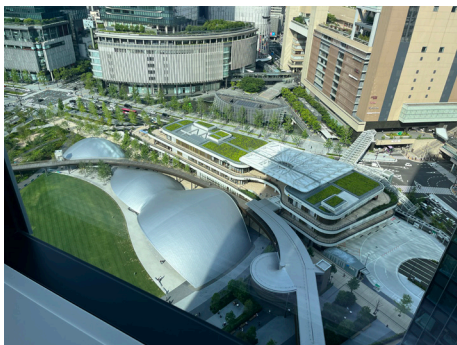
グラングリーン大阪を視察して、まず圧倒されたのは都市の真ん中に広がる緑のスケール感でした。梅田貨物駅跡地とは思えないほど自然豊かで、都市と自然が見事に調和しています。特に「うめきた公園」は、高低差のある地形や水辺、植栽の工夫により、ただの広場ではなく“歩きたくなる空間”として設計されており、訪れる人々の滞在意欲を高めていると感じました。空間全体に漂う洗練された雰囲気、都市開発の未来像を垣間見ました。

また、三菱地所パークス株式会社 CREPE営業推進室の皆様には、グラングリーンで採用されている駐車場管理クラウドシステム「CREPE」のご説明をいただき、実際に駐車場の視察をさせていただきました。

「CREPE」という名称には、“Create Excellent Parking Experience(素晴らしい駐車体験を創造する)”という思いが込められていることをご説明いただきました。実際にお話を伺い、QRコードによる精算やスマートフォンでの多様な駐車チケットの購入、さらにクラウド型の駐車場管理など、利用者の利便



性と管理効率を高める工夫が随所に施されている点に感心しました。また、すでに開業している商業施設のPOS端末と連携し、認証機のコスト削減も実現されており、現場視点に立った柔軟なシステム設計にも強く共感しました。



初日の見学はここで終了し、17時に大阪・梅田を出発して奈良県へ移動。意見交換会は和楽心 新庄店にて開催されました。大阪・関西万博およびグラングリーン大阪の視察では、各所を巡る中で長距離の徒歩移動が続き、ある方の万歩計では2万歩を超えていたとのこと。しかしながら、企画委員会・後藤委員長のご発声による乾杯と、加藤副委員長の中締めにより、会は終始和やかかつ活気ある雰囲気の中で進みました。皆さん、その疲れを感じさせることなく、視察を振り返りながら有意義な意見交換が交わされ、実り多い1日の締めくくりとなりました。



6月13日(金) 見学会2日目

- ・ 橿原神宮 視察
- ・ 今井町 視察
- ・ 大神神社(おおみわじんじゃ) 視察
- ・ 昼食(夢宗庵)

8時30分にホテルを出発し、まずは橿原神宮へ向かいました。

橿原神宮は、日本神話に登場する初代天皇・神武天皇を祀る「日本建国の聖地」として知られています。

1890年に創建され、神武天皇が即位したとされる畝傍山のふもとに位置しています。広大な境内には檜造りの社殿や神聖な杜、鏡池が整備され、年間を通じて多くの参拝者や観光客が訪れる奈良を代表する名社のひとつのことです。

境内に一步足を踏み入れると、外の喧騒とは一線を画す静寂と清らかな空気に包まれ、自然と背筋が伸びるような感覚になり、参道の木立や鏡池に映る風景、本殿の厳かな佇まいは、歴史や文化を肌で感じさせてくれました。施設としての整備も行き届いており、案内や動線もわ

かりやすく、学びと癒しの両面で非常に印象深い視察となりました。



次に、今井町へ向かい、戦国時代から江戸時代にかけて形成された「寺内町」の風情を色濃く残す歴史的な町並みを視察しました。重要伝統的建造物群保存地区にも選定されており、現在でも約500棟の江戸期の町家や土蔵が現存し、「大和の金は今井に七分」と称されるほど栄えたといわれているそうです。

その町並みは、格子戸の連なる古民家や石畳の通り、手入れの行き届いた植栽など、すべてが丁寧に保存されており、地域の皆さんの誇りと努力が感じられます。現代的な機能を採用しつつも、それに侵されすぎていない落ち着いた雰囲気の中で、ただ歩くだけでも歴史や暮らしの息遣いが伝わってくる場所でした。



最後に、大神神社を訪問しました。奈良・桜井市の三輪山を神体とする日本最古級の神社です。本殿を持たず、拝殿奥の「三ツ鳥居」を通して山そのものを拝む、古代信仰の形が保たれています。主祭神は大物主大神(おおものぬしのおおかみ)で、国造り・医療・酒造・縁結びなど人々の生活全般を守護すると伝わります。大物主大神は、しばしば白蛇の姿で現れると伝えられており、白蛇は神の使い=神霊の化身とされ、神聖視されているそうです。



実は三輪は、そうめん発祥の地とされ、古くから「三輪そうめん」の名で全国に知られる名産地です。大神神社を参拝した後は、周辺の物産店で多くの方が「葛入りそうめん」を熱心に探されていましたが、なかなか見つからない様子でした。

後から伺ったところによると、葛を練り込んだそうめんは、通常的小麦だけで作られたもの

よりも、もちっとした強いコシとのどごしの良さが特徴で、特に冷水で締めるとその差が際立ち、暑い季節にはぴったりの爽快な味わいが楽しめるのだそうです。

そして全行程の視察を終え、昼食のために立ち寄った「夢宗庵」では、まさにその葛入りそうめんが販売されており、皆さんが昼食前にもかかわらず大行列をつくって購入されていたのが印象的でした。偶然の出会いでしたが、地域の食文化への関心と魅力を再発見する貴重なひとときとなりました。

最後に、今回が初めての参加となりましたが、かけがえのない貴重な経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。見学会の実施にご尽力くださった事務局の皆様、そして総会から見学会に至るまで、素晴らしい企画と丁寧な調整を行ってくださった全日本駐車協会の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。